

○議長（松尾徹郎君）

以上で、横山議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

関連質問なしと認めます。

ここで、暫時休憩いたします。

再開を11時といたします。

〈午前10時53分 休憩〉

〈午前11時00分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。〔10番 東野恭行君登壇〕

○10番（東野恭行君）

おはようございます。

みらい創造クラブの東野恭行でございます。

発言通告書にのっとり、1回目の質問をさせていただきます。

時代に適応した住みやすい糸魚川のまちづくりについて。

今後、時代に適応した「暮らしやすい社会形成」が必要であります。時の政治が「正しい判断と選択」をしなければ、今の公共を維持するどころか、住み続けられるまちとして選択してもらえない状況に陥ると考えます。糸魚川市は、スクラップアンドビルドを真剣に考える時期に来ていると考えます。

(1) 「地域経済の循環」における今後の糸魚川市の展望について。

- ① ウクライナ情勢の緊迫化に伴うエネルギー価格のさらなる高騰や物価高騰に対し、糸魚川市が考える経済対策を伺います。
- ② インバウンド観光における糸魚川市の受入れ体制と、これからの展望について伺います。
- ③ 糸魚川市の「大糸線利活用」に関する本年度の取組実績と、今後の在来線存続に対する考え方について伺います。
- ④ 日本各地で増え続ける「道の駅」。糸魚川市に既存する「道の駅」に関する活性化策と、将来の展望について伺います。

(2) 「地域医療の充実」における今後の糸魚川市の展望について。

- ① 糸魚川総合病院の産科医師の退職意向を受け、新たな産科医師の確保に向けた取組や妊

産婦支援の充実が図られますが、持続可能な来年度以降の取組について伺います。

- ② 令和5年度以降、産科医師の確保が困難であった場合、産後安心して糸魚川市で育てていただくための施策について伺います。
- (3) 「教育の推進」における今後の展望について。
 - ① 保育園の民営化により、保育サービスの充実や市財政の健全化が見込まれると考えますが、保育園の民営化の見通しと懸念事項を伺います。
 - ② 高校の魅力化について、本年度、高校魅力化コーディネーターが3名任用されましたが、今後何年計画で、どのような効果を期待しているのか伺います。
 - ③ 少子化の状況にありながら子育て支援施設と室内遊戯場が新設される予定ですが、設置後に期待する効果と糸魚川市の長期的展望について伺います。
- (4) 「住む場所」「働く場所」として糸魚川を選んでいただくための今後の展望について。
 - ① 原油や物価の高騰に合わせた、公共事業の単価の引上げについて、糸魚川市の考えを伺います。
 - ② 市内の中小零細企業が売上げ（利益）を上げ、物価高騰に見合った人件費を支払うために、糸魚川市ができることは何か伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

東野議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目の1つ目につきましては、状況に応じてプレミアム商品券事業などを実施し、市内の経済活動を停滞させないことが重要であると考えております。

2つ目につきましては、市と観光協会が一体となり、県や北アルプス日本海広域観光連携会議と事業を進めておりますが、さらなる現地旅行社からの情報収集や市内宿泊施設の受入れ実態等の調査により、ニーズに合った体制と情報発信を展開してまいります。

3つ目につきましては、沿線自治体などと構成する大糸線活性化協議会において、雪月花の乗り入れをはじめ、サイクルトレイン、また、乗車イベントの経費助成等の事業に取り組んでおります。

今後、北陸新幹線敦賀延伸やインバウンドの回復等により、利用増加が期待される中、利用促進と地域の活性化につながる取組を進めていく必要があると考えております。

4つ目につきましては、道の駅に期待される機能の検証と施設の老朽化への対応を検討するとともに、周辺観光施設との周遊による誘客を図ってまいります。

2点目の1つ目につきましては、現段階での分娩の取扱いを継続できる状況には至っておりませんが、引き続き県や糸魚川総合病院と連携し、産科医師の確保に努めてまいります。

2つ目につきましては、現在、居宅訪問型の産後ケアなどに取り組んでおり、今後もニーズに沿った支援を進めてまいります。

3点目の1つ目につきましては、民営化に係る保護者等の理解を得ることや、移管する園の適正規模と移管先法人等の選定に一定の時間を要するものと考えております。

2つ目につきましては、探究プロジェクトなどを行う中で、生徒が18歳で自立し、地域に愛着を持つことや市内3高校の入学者数の増加が効果と捉えております。

3つ目につきましては、子供の減少に伴い、子育て世代同士の交流機会の減少も見込まれていることから、悪天候のときでも子供や子育て世帯の交流が促進され、安心できる新たな居場所として子育て環境の充実につながる拠点施設となるよう整備・運営してまいります。

4点目の1つ目、公共事業の単価につきましては、国や県の基準等を確認する中で、適正な金額設定に努めてまいります。

2つ目につきましては、市民一人一人の市内消費を喚起し、景気を後退させないことが、市内事業者の支援につながるものと考えております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

それでは、（1）番の①番から再質問させていただきたいと思っております。

ウクライナ情勢の緊迫化に伴うエネルギー価格の高騰についてでございます。

上越市は、令和4年11月24日から、いち早く市内に事業所を有する中小企業、個人事業主、公益法人、農林水産事業者等で支援給付後も事業を継続する意向があるものを対象に、上越市エネルギー価格高騰支援金の受付が開始されました。

糸魚川市においても、このような補助支援が必要と考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

物価高騰は、一時的なものではなく中長期的に継続し、年明けには、まだまだ上昇するという予測も発表され、状況は非常に不透明なものと考えております。

当市といたしましては、東野議員ご提言の、上越市のような支援金の支給は、現状は考えておりません。まず、適正な価格転嫁を行うことが第一と考えており、価格転嫁を行いやすい機運醸成のため、セミナーの開催や相談窓口の設置を経済団体と共に、経済団体に対しましても要請してまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

こちらの問題ですが、本当に時間がたつごとにちょっと深刻化するし、なかなか気づいたときには、はっという、そういう状況ができると思っておりますので、そういった関係各社とそういった話合い

等をどんどんしていただきたいと思います。

エネルギー価格の高騰についても、出口が見えないと考えています。金融機関ともお話しの上、融資に対する金利の減免措置についてもご検討いただきたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

テレビ等、ニュースを拝見いたしますとJRや東京都のタクシーの運賃等の値上げのほうも発表されております。エネルギー価格の高騰に伴う販売価格の上昇につきましては、やむを得ない状況ではないかなと捉えておまして、一市町村レベルにおきましては、対応のほうも限界があるのではないかなと、国の経済政策や金融政策によるところが、とても大きいと感じております。

今後、国の動向のほうを注視させていただきまして、今ほどご提言の減免措置なども検討してまいりたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

よろしくお願いたします。

エネルギー価格の高騰を受け、打撃を受けるのは個人消費者もちろんですが、体力の弱い中小零細企業であると考えます。原材料や電気・ガスなどの固定費の高騰により、販売価格に転嫁するのが本来ではございますが、価格を上げ、利益を確保するまでの時間がかかることは、容易に想像ができます。ぜひ先ほどもお約束いただきましたが、事業所のお話に耳を傾ける機会を設けていただきたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

この秋頃に、様々な団体のほうから意見や要望のほうをいただいております。

今ほど東野議員ご提言のとおり、改めまして様々な団体から事業所等のお話を聞ける機会を設けていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

よろしくお願いたします。

②番、インバウンド観光における糸魚川の受入れ体制についてでございます。

コロナ禍の状況もありますが、シーフードシャトルバスの再開も期待するところであります。広域に連携を図り、糸魚川市にも外国人観光客が訪れる道筋を引き続き行っていただきたいと思っております。

外国人観光客に対し、糸魚川の魅力をどのように伝えていくのか。県の石として認定されたヒスイの活用は、どのように考えているのか。糸魚川市に繰り返し訪れてくださる日本人観光客の傾向を参考に、インバウンド観光に訪れる外国人観光客にもヒスイを普及することができないか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

政府がインバウンド入国緩和しました10月から、新潟県も当市を含めまして県内市町村、旅行会社と連携いたしまして、来年1月にチャーター便が再開されます台湾等東南アジア圏をターゲットといたしましたセールスを開始しております。古くからヒスイを貴重なもの、神秘的なものとして捉えておりますアジア圏の方々に、県石ヒスイの産地として糸魚川市をPRできる絶好のチャンスとして捉えております。

また、ヒスイと併せまして、糸魚川真柏やベニズワイガニなど、当市の魅力的な観光ツールを活用しまして、PRのほうを図ってまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

東南アジアのほうにヒスイや真柏、カニといった食材を、またPRしていくことを期待申し上げますので、よろしく願いいたします。

ヒスイが県の石として認定されましたが、既に国石としても認定を受けております。

しかしながら、一市民として活用の仕方、売り込みについて、ぴんと来ないのが現実でございます。やれることがあるとするならば、既に多くの皆さんがされていますが、ヒスイをあしらったピンバッジやタイピンなどを、男性ですとそのようなものを身につけることぐらいかなと思いますが、糸魚川市として、一市民へそういった運動、活動の投げかけというものは考えておられますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

市民に対する投げかけにつきましては、これまでも講演会やジオパーク学習など、教育的なア

ブローチを中心に、ヒスイの希少性や歴史的価値の周知のほうを努めてまいりました。今後は、県の石という付加価値を利用いたしまして、観光協会や商工会議所など、関係者と連携しながらヒスイカクテルやヒスイ婚ツアーなど、ヒスイにちなんだ商品開発への支援等を含め、市民が持続的にヒスイを活用できる環境を整えてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

商品開発等に対する支援、ご期待申し上げます。よろしくお願いいたします。

インバウンド観光においても通常の観光においても、糸魚川市はいいところなのに、観光資源もたくさんあるのに、いま一つ観光地としての印象が薄いことは否めません。糸魚川版DMOの活性化と市民への啓発も含め、ジオパークとヒスイの認知をさらに高めていただきたいと思います、米田市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今やはり糸魚川は、議員ご指摘のとおり、自然資源、また観光資源は非常に、他にないものがあるわけでありますが、しかし、周知されたり認知されてないところが多いと思っております。その辺を今までジオパークで、価値、またそういった非常に今まで知れてなかったものが、ようやく市民も知るようになったり、また市外のほうに情報発信するような形になってまいったわけでございますので、こういったところをどのように提供していくのか、またどのように情報発信していくかというところが、これからの課題だろうと思っております。そういったところをしっかりとまとめながら、効率のいい情報発信、また提供していきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

観光に関して関連する点を1点、糸魚川版DMOなんですけども、果たして今、活発化してるのか、お聞かせいただきたいと思います、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

今ほどご質問の糸魚川DMO、やはり市民の皆様に対しては、なかなか目に見える結果のほうは出せていないのかなというふうに感じてはおります。

しかし、観光協会の中にありますDMOでありますので、様々なツアー造成や、またイベント等で、今年1年も頑張っていたのではないかなというふうに思っておりますので、やはり今ほど議員おっしゃるように、活躍が見えるような形を今後取っていけるように、また一緒になって検討のほうをしてまいりたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

よろしく願いいたします。

続きまして、大糸線の活用についてでございます。

大糸線65周年の事業などでにぎわいを創出されていますが、引き続きイベント等でにぎわいを創出して、少しでも乗降客を増やしていただくことが目下できることであると考えております。

148号線の高規格道路の事業化が決まった背景は、大型トラックなどの大型輸送や移動時間短縮等の利便性向上などへの期待感であると考えますが、残念ながら大糸線に関しては、相反するところがあります。

北陸新幹線が、敦賀まで延伸されることで、利用客は増えていく可能性がある。災害などで国道が閉鎖されたとき、防災の観点で鉄路を残しておかなければ不安である。様々な仮説が立てられると思いますが、大糸線を残さなければならないとされる一番の理由は、なくなってしまうと寂しい。歴史を積み重ねてきた大切な糸魚川市の資源だという情緒的な理由であると思います。大糸線は、ふだん利用することがない市民が大半であることから、大糸線利活用に関心が薄いと思いますし、きっと誰かが何かをやってくれるだろうという世界観だと思います。

糸魚川市においても、沿線上の住民の方々から情緒的な訴えや話合い、アイデア出しなどは、繰り返し行ってきたことと思います。これから輸送密度を上げるべく、目標乗降客数の設定がされることで、持続可能で沿線地域住民の利活用を前提とした方策を考える必要があると考えますが、例えばえちごトキめき鉄道のえちご押上ひすい海岸駅のように、糸魚川から南小谷の間に新駅設置などの方策は考えているのでしょうか。また、今後、設置するだけの価値はあるとお考えか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

おはようございます。

お答えいたします。

大糸線は、沿線住民の生活を維持するための機能ですとか、関西圏、首都圏、あと中京圏を結ぶネットワークの機能、あと災害のときの代替機能というのも有しております。さらには、7・11の復旧のときには、新潟、長野両県で、多額の費用を投じて復旧をしたという、そういう公共性の、そもそも強い路線でございます。

またこの先、新幹線、今は東京との往復なんですけど、関西、敦賀ではなくて、京都、大阪のほう

につながることで、1方向ではない2方向の動きということは、当然、観光ビジネスのチャンスと
いうのがつながってくるかと思えます。

あと、ご質問の中の松本糸魚川連絡道路、これは当市にとっては重要な課題なんですが、効き目
は主に物流のほうにいろいろ効いてくるかと思えます。また、仮称の安曇野北インターチェンジま
でつながるとのことまでは、相当な時間がまだ要せられるものというふうに考えておりますし、
インバウンドの皆さんは、引き続き移動というのは鉄道が中心だという状況かと思えます。

そういう状況の中でありまして、今、議員ご質問の情緒的、感情的に必要なだというふうに言っ
ておるだけでは、やはり国、県、JRに対してもつながりませんし、市民の皆さんにもなかなか伝わ
らんとしますので、ある程度データを携えて、その辺を仕事を進めていく必要があると思えます。

あと新駅に関係しましては、以前マックスバリュの辺りに駅があるといいななんていうようなお
話を地元の方から聞いたこともございます。

ただ、JR西日本は、これまで運行本数、18往復というのを維持するために様々なコストダウ
ンというものをしておりますので、利用者のご不便につながったコストダウンもあるんですが、そ
ういう状況の中で多額の費用をかけるというのは、少し難しいかなと思っております。

まず、今、低迷しておる大糸線のご利用数を、乗車数を少しでも右肩上がりにするこ
とで、沿線関係団体一丸となって、これまで以上というか、今までも本気だったんですが、よりギアを上げて、
もう少しスピード感を持った取組というのをしていかなければいけない今は状況であると言え
ると思えます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

引き続き大糸線ですが、観光列車として大糸線の観光スポット、目的地の開発や見直しは考
えておりますでしょうか。

列車から見える溪谷の魅力ある景観を全国に発信するべく、取組は行っていますでしょうか。

様々な方面から、大糸線を利用するべくアイデアも出たことと思えますが、観光列車として実
効性があるアイデアの実践や検証は行っていますでしょうか。検証されたアイデアは、誰がやるか明
確でございましょうか。

観光客獲得に向けた大胆な取組は、費用も時間もかかると考えますが、目標乗降客数を設定し、
乗降客を増やしていこうとなると簡単ではありませんし、一歩踏み出して考えなければならない必
要な判断であると考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐都市政策課長。〔都市政策課長 五十嵐博文君登壇〕

○都市政策課長（五十嵐博文君）

お答えいたします。

議員ご質問のとおり、大糸線は車窓の景色ということで、列車自体、鉄道自体が魅力の一つです。

また、沿線には、市内だけではなくて南のほうに行きますと、白馬バレーですとか黒部ダム、松本城とかの国内有数の観光地というのを有しておりますので、大糸線活性化協議会ですとか、松本から糸魚川まで全体の同盟会でありますその中に、振興部会というものを設けて取組を進めておる、検討しておるところでございます。今後は、JRに対する要望とかいろんなことをやってきましたが、大糸線の利用数の増、活性化というところをまず一つの目標に掲げまして、路線全体で、そこに新潟、長野両県と特徴的なのは、そこにJRも入っております。JRも一緒になって利用促進を進めていこうというところでございます。

観光的なところに関しましては、先般65周年の事業といたしまして、えちごトキめき鉄道の「雪月花」、あとJR東日本の「リゾートビューふるさと」、それを、最後は北陸新幹線でぐるっと糸魚川から1周回ってくるというようなツアーを実施したのと同時に、安曇野市のほうまで沿線一体となって駅でおもてなしをすとか、そういう事業者と地元の方と一緒にした取組をしておるところでございます。今後、先ほどのそういう取組は引き続きやっていかなきゃいけないですが、先ほどの観光も同様です。そういう取組をやっているということをやっぴりちゃんと知ってもらおうというのが大事ですので、SNSというのを活用して、情報発信の強化というところを、それぞれ松本から糸魚川まで1つの情報で出していこうというようなところで、今その情報の発信の仕方についても、先ほどの振興部会のほうで議論を進めておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

先ほど質問の中にもあったんですけども、いろいろなアイデアが出される中で、その出されたアイデア、誰がやるんですかというところ、大事だと思うんです。今後、市がやるんですか。それとも西日本がやるんですかというところが明確じゃない。そのアイデアというのは、結局すべからく費用がかかってくると思うんですが、その辺が明確じゃないことによって、本当に宙ぶらりんになる議論が多くあると思うんです。

そういった中で、糸魚川市がこれをやるというのはなかなかちょっと今申し上げにくい状況にもあるかと思うんですが、その辺の覚悟というのが本当に残っていく路線につながっていくんじゃないかなというふうに考えますが、その辺いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

確かに大糸線、本当に長きにわたって利用促進の同盟会を設置して取り組んでまいっております。そういう中で、JRに国鉄から変わってから、非常にやはり採算性というものを中心に営業路線という形を取ってきたわけでございまして、今までのやり方は、どちらかというと、要するに収益を上げるのではなくて、逆に採算性を合わせるために省力化をしてまいっております。それが逆に私

は、やはり乗降客が減っていった理由でも、利便性が悪くなることによって沿線住民が乗らなくなった一つの大きな事柄であると思っておりますが、そういう形でやってきたわけですが、それでは、我々糸魚川市はそれでいいかということになってくると、やはり糸魚川市の町の形態として、都市形態として、北陸線があって、今度はそれが北陸新幹線になる。そしてえちごトキめき鉄道があって、大糸線が松本とつながっておるということは、糸魚川という町の都市の価値につながる部分がございます。なくなるということは、観光的なところでダメージを大きく受ける部分がございますので、なくしてはならないということで活動してまいりました。

しかし、ここへ来て、非常に危機感が高まってまいりました。そんなことから、コロナ発生前なんですが、JR西日本からも声がかかってまいりました。活性化をしていこうじゃないかという声がかかってきて、それに乗かって、今この協議会をつくって、進めていこうとした矢先にコロナが発生し、さらに廃止の危機が高まっておるわけであります。

そういう状況の中で、今何をやらなくてはいけないかということになりますと、少しでも乗降客を増やすことによって必要性、また訴えていくことが大事だということで、今、糸魚川市といたしましてもしっかり取り組んでいかななくてはいけない。そして、沿線住民等の足には、もうなっていない部分をどう糸魚川市の市民からマイレール意識を持ってもらうか。そういった機運を高めていかななくてはいけないということと、そして、松本・糸魚川間の沿線自治体の皆様方と手を携えて、一体となって活動していこうという今方向があるわけであります。そして、国もやはりこの3年の間で内容を見て、本当に必要な路線かどうか判断するという、非常に最後の大詰めに来ておる感がございますので、もう本当に少しでも乗降客を増やして、そういったところに対応していきたいところが現状でございます。

そんなことから、やはり市といたしましても、新年度においても事業を展開していかななくてはいけない。そしてまた、特に南小谷・糸魚川間は、非常に少ない乗降客でございますので、小谷としっかりとタグを組んで、その辺に取り組んでいかななくてはいけないという状況であることを、皆様方もご理解いただきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

今ほど市長のお話にもありましたとおり、3年という期限、そういった数字が出てきましたけども、言わば起爆装置にちょっと手がかかったような状況かと思うんですけども、やはり糸魚川市としてこういうふうにしたいというビジョンをしっかり固めておくべきかと思えますし、やっぱりこういう構想がないと、市民の皆さんにもしっかりと理解いただけないというふうに思っております。本当にもう今からでも遅くないと思えますから、こういった構想をしっかり固めておくこと、そして、他市町村、2県8市町村ですか、の方と連携を図りながら議論を深めていただきたいと思えます。

国や県に対する大糸線を残してほしいという要望や活動は、地方自治体や地方議会の役割であると考えます。大糸線は、新幹線と接続する大切な路線であること、観光地としても名高い白馬村とも接続する大切な路線から、大糸線の持続を図る方向を、方策を糸魚川市がリードする形になろう

と思いますが、2県8市町村で知恵を出し合って、よい方向性を導き出していただければというふうに思います。

続きまして、4番目の道の駅の件でございます。

行政と指定管理者双方で協議の上、例えば駐車場の拡大ですとか店舗内の改修、トイレの改修、共益ゾーンの改修、そして、店舗構成の見直し等が図られると思いますが、現在そのような協議を实际されているのかどうかを伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大西商工観光課長。〔商工観光課長 大西 学君登壇〕

○商工観光課長（大西 学君）

お答えいたします。

現在の市の動きでございますが、マリンドリームに関してであります。施設の老朽化が進む中、重点道の駅になったことから、現在、マリンドリームで営業している事業主や地元住民、利害関係者によるワークショップを昨年開催し、利活用の推進ビジョンのほうを策定しております。

本年度は、そのビジョンをより具体化するために、整備計画の策定を進めておるものでございます。当事業の経験、また、実績を基にしまして、引き続き、残るそのほかの2つの道の駅につきましても、計画を進めていかなければいけないかなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

本当に最近のショッピングセンターあたりですと、10年かそこらでリニューアルというのを考えるんですね。それだけやっぱりきれいな環境、新しい環境、そしてお客さんに喜んでいただける環境の整備って、公共施設についてもしかりかと思えます。またしっかりと協議していただいて、話を進めていただければというふうに思います。

最近では、糸魚川市の近隣で、黒部の道の駅が開設されました。入善の子育て支援施設の視察と併せて立ち寄ったところ、平日の夕方にもかかわらず、多くの利用者があり、買物客も大勢いらっしやいました。黒部の名産品などが立ち並び、にぎわいがあり、何より衛生的で子供たちが遊べる前提で遊具がレイアウトされており、余裕のある空間という印象がありました。

糸魚川市にある道の駅に関しては、設置から30年近くたっていますが、新しいところほど人が集まると思えますし、進化していく努力は不可欠であると考えます。第三セクターという組織の場合、市がリードして提案していくのか、民間がリードして提案していくのか分かりませんが、道の駅に対する市民の期待感は大きいと考えます。

そこで、前回の質問にも出させていただきました、これから大量に発生するであろうしゅんせつ土、掘削土の活用も含めて気になるところですが、現段階での糸魚川市の考えをお聞かせいただきたいと思えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

井川副市長。〔副市長 井川賢一君登壇〕

○副市長（井川賢一君）

お答えいたします。

国や県の事業も含んでなんですけども、市の中でいろんな事業を展開していくためには、発生土ですとか、今ほどおっしゃったしゅんせつ土の処理というのは、本当に大事なことだというふうに思っています。これが事業の進捗に大きく関わっているというふうに思っております。これを東野議員からは、道の駅の整備だとか改修に活用してはどうかというご提案だったというふうに思っています。そういった整備・改修もそうですし、併せてそういった発生土、しゅんせつ土の処理、両方に関わる案件だというふうに思っていますので、特に老朽化している道の駅については、この点を踏まえて、早急に検討していきたいというふうに思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

一議員の勝手な提案で、こうやったほうがいい、ああやったほうがいいというものなかなか厳しいところでもあるんですが、能生のマリンドリームに関しては、ゴールデンウィークですとか夏期の繁忙期になりますと、車とかオートバイが、もう道路に落ちてくるんじゃないかというぐらい、もうあふれんばかりに駐車場が満載な状況になっております。これは本当に駐車場を拡大するといだらうなというのは、一市民ながら感じておるところでございますし、しっかり事業者と協議していただければというふうに思っております。

引き続きまして、（2）番の地域医療の充実における今後の糸魚川市の展望についてでございます。産科の医師退職の件ですね。①番でございます。

11月17日の総務文教常任委員会の所管事項調査におきまして、こども課より、妊産婦支援について説明がありましたが、資料には、令和5年4月以降の対応として、糸魚川総合病院における産婦人科医師の確保状況を見定めながら、それに応じた支援策を表記に準じて検討するとありましたが、限定的な施策ではなく、子ども誕生お祝い事業の拡充や出産時宿泊費用助成などは、継続して予算計上すべきではないかと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今ほど議員のほうからお話のありました事業につきましては、令和5年の3月分のみということで予定しておりますが、令和5年4月以降、新年度ですが、市内で分娩ができないような場合には、継続していかなければならないと捉えており、こちらにつきましては、新年度予算となりますが、皆様のご意見やニーズを把握しながら進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

よろしく願いいたします。

それでは、②番、産後、安心して糸魚川市で育てていただくための施策についてでございます。

先般の伊藤議員と保坂議員の質問の中にもございましたが、ぜひとも、この宿泊型の産後ケアについていろいろご検討いただきたい、このように思っております。引き続き、産科医師の確保に努めていただくことももちろんでございますが、今後重要なのは、産後、安心して糸魚川で子育てができる環境整備であると考えております。産科医師が見つからない場合の環境整備も十分に検討されていることと思いますが、出産を控えたママに不安を与えないような対応策をしっかりと今のうちから講じていただきたいと考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

これまでも妊娠から出産、産前産後につきましては、例えば産前産後のヘルパー事業や、その事前の相談事業、また母乳相談などの各種ケアに努めてきたところでございます。出産・誕生につきましては、将来に向けて楽しみや喜びといったものがあるとともに、不安といったものもあるものかと思っておりますが、そういった不安を少しでも解消するべきだというふうに考えておりまして、既存の事業に加えまして、現在、国のほうでも伴走型の相談支援というのも出ておりますので、そういったものを組み合わせる中で、安心して産み育てるような制度といったものに取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

ぜひよろしく願いいたします。

続きまして、保育園の民営化について、（3）番の①から再質問させていただきたいと思っております。

今後、保育園の適正配置や民営化に進んでいくと仮定するならば、どのようなスケジュール感で、どのように保護者に理解を深めていくのか、誰がリードして、どのような協力体制で進めていくのか、伺いたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

まず、誰が主体といたしますか、リードされていくのかということにつきましては、市が保育の実施主体でありますので、市が先導しなければならないというふうに考えております。現在、こども課でも保育園の適正配置、また民営化につきましては、少子化の中、避けては通れない課題だとい

うふうに捉えております。

現在、糸魚川市のほうでも、子ども・子育て会議といった組織がございます。そちらのほうで、所掌の事務の中でも民営化という部分もうたわれておりますので、そういった子ども・子育て会議、また関係団体とも協議していく中で、市として方針を決定しまして、まとめていきたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

頂いたお声を基に、再質問させていただきたいと思います。

適正配置、民営化に対してお話が出てから6年ほど経過し、少しずつ理解されてきましたが、具体的な市の動きがない。少し慎重過ぎる感じがする。有識者懇談会なり協議会を設置して、積極的に取り組んでほしいという要望も聞かれておりますが、どのようにお考えか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

確かに適正化・民営化に関しましては、子供、また保護者、地域ということで、関係者が多数いるような中で、保育という大切なものの対応なことから、慎重過ぎる部分、また時間を要する部分というのもご理解いただければなと思っております。

今回、外部の方からご意見をということで、そういったことを行っておる自治体もございますが、先ほど申し上げました既存の子ども・子育て会議、こちらには子供の保護者であるとか園関係者で構成されております。そういった方々のご意見を聴く中で、会議の中で民営化等につきましてご意見聴く中で、まずはこの会において、民営化の議論について進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

少し関連してくるところなんですけども、ある保育園の園長先生から、保育園の現状や課題解決についての確な返答がもらえず、不安に感じるという言質をいただいております。これらについても先ほどと同様となりますが、どのように捉えているかお答えいただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

ご相談の内容によりましては、お時間のかかるもの、またなかなか解決に結びつかないといった

ものもございます。そういった中で、現在、公立の保育園、また私立の保育園につきましては、主に月1回程度でございますが、定期的に園長会議といったものも実施しております。

そういった中で、それぞれの園に関する事、また、全体の園に関する事ということで、テーマはそれぞれあるかと思いますが、そういった中で、共有をしてみたいと思っておりますし、また個別の事案等につきましても、しっかり対応してみたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

こちらも頂いた声でございますが、市長に対することでございます。

公立保育園の民営化事業や子育て支援の充実について、市長ご自身のお考えを聞ける機会があればいいという声が聞かれておりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

今期出るときに、若い女性の皆様方とか女性の皆さんと懇談をした経過がございます。そういう中でもいろんな課題が出たり、いろんなご意見いただきました。そういったことを定期的にやっていきたいと思ってたんですが、コロナで今ストップしてるのが実情でございます。

私といたしましては、積極的に対話をしながらいろいろ要望をお聴きしながら、今言ったこの保育園の問題等についても対応していきたいと思っております。やはり理解してもらって初めて、その制度、また事業が成り立つわけでございますので、そういったところをお互いに情報交換は大事だと思っておりますので、開催をぜひやっていきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

よろしく願いいたします。

私立保育園の理事長や園長先生と公立保育園の園長先生との懇談会は、可能であるか。

まず、そのような取組は、現在までにあったか伺いたいと思います。懇談会の目的やテーマの設定が肝要になると考えますが、少子化問題や先細る市の財政状況、子供にとって今後必要な教育環境の整備などを踏まえた議論が必要であると考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

まず、前段の公立保育園の園長と、あと私立との、そういった合同になったの取組があったかということですが、定期的を開催しているわけではございませんが、これまであった事例といたしまして、例えば感染症対策など、日常の保育に絞ったテーマを持って今まで懇談会等を行ったことがございます。

また、そういったことも今後進めてはどうかというふうなご提案だと受け止めておりますが、公立、私立、それぞれ地域性があったり、それぞれ園の特色があったりしまして、様々な保育環境を意見交換し、上向いていくというのが大切だなと思っております。公立、私立問わず、みんなで考え、議論する場といったものは、有効であるというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

まず、民営化云々ということよりも、今後子供たちにとって本当に大切な環境整備って何だという視点で、その懇談会ができないのかなというふうに、私、客観的に見て思うんですが、教育長いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

轟本教育長。〔教育長 轟本修一君登壇〕

○教育長（轟本修一君）

お答えいたします。

私の考えにつきましては、民営化ありきということよりも、今現在、私立園、公立園、それから公立幼稚園、私立幼稚園、それぞれ旧青海町、旧糸魚川、旧能生地区のそれぞれ独特な環境の中で子供たちが今学んでいます。そこら辺りのところをどんなふうにして情報交換をするのかという部分が、なかなか今までどんなふうな場で、どんなふうな関係者で懇談をするのかという部分の機会を持ちたいとは思いつつも、なかなか持てないでいました。

ところが、やっぱり長期的に考えた場合も今からでも精いっぱいその辺りに向けて、まず情報交換という部分の中で、子供たちが学べる環境というのはどんなふうな環境が適してるのか、みんなで考えましょうというような場のつくり方の設定をやっぱり教育委員会がちょっとリードしてやっていく必要があるなと思うんです。

ただ、誤解してはいけないのは、もうすぐそんなふう動き出しますというと、行政のほう为民営化の方向に何か進んでいくんじゃないとか、あるいは行政がトップダウンで、これからの子供たちの環境づくりのためにどんなふうな構想を持ってるのかという部分、何か押しつけられるんじゃないかという部分のところを私、今非常に懸念してるんです。そこら辺りの誤解のないように、やっぱり時間をかけて一歩ずつ、その情報交換、情報共有、そして検討会というふうな部分のところの構築が、今求められると思ってます。

その中に、やっぱり私どもは、大学の先生なりの知見を入れていく中でもって、糸魚川に合ったこれからの子供たちの学ぶ環境づくりをどうしたらいいのか。専門家の知見なども入れながら、やっぱり一歩ずつ進めていく方向が、今求められていると。しかも緊急に求められているというふう

に私は受け止めております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

先ほども繰り返し申し上げますが、やはり子供たち、糸魚川に住む子供たちにとって最善な教育の環境は何なんだというところ、そういったところを本当は民営化ありきではなく、まずそういった議論が必要かと思しますので、また糸魚川市なりとして対応していただければというふうに思います。

続きまして、公立保育園の若手職員に早期退職者が増えていると聞きますが、その実情はどうなっているのか調査をしてほしいとの声があります。その原因はどこにあるとお考えか。職場環境なのかメンタルケアなどの必要性を感じているのか。私立保育園が、その受皿となり得るのか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

保育士の退職の実情でございますが、個々の事情によるものであるというふうに認識しております。例えば保育観の違いであったとかそういったもの、またコミュニケーションといったものも今後必要になってくるものだと思っておりますが、そういったものにつきましては、一つ一つ解決していきたいというふうに考えておりますし、また皆さん、夢や希望を持って保育を目指してきた方々で、私どもとしては続けてもらいたいというふうな気持ちがありまして、その後、退職後の意向につきましては、それぞれによるものであるというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

そういった背景に保育士不足があります。保育士不足を解消するための具体的な施策はあるか。市内の保育士資格保持者、潜在保育士の把握はできているのか。これら人材のデータベースの構築と情報提供は、可能であるか伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

まず、前段の保育士、幼稚園教諭の資格をお持ちの方はということの把握につきましては、現在そういった方々の人数というのは、つかんでいない状況ではございますが、そういった中でも、例

えば急に保育士が休まなきゃいけないような事態になった場合には、代替職員を、それぞれの園で確保するといったような方々の、代替職員につきましては、把握をしてるところでございます。

また、人材バンクといったお話もございましたが、全体的に人材不足をする中で、現実としては難しい状況でありまして、場合によっては外部の力といったものも借りなければいけないような状況であるというふうに認識しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

引き続きまして、今後の糸魚川市の保育ビジョンの構築、先ほどもお話、教育長のほうからお話ございましたが、専門家を交えた保育ビジョンの構築や有識者も交えた先進地視察などが必要になってくるんじゃないかなと思っておりますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

外部の方、有識者をということでございますが、現在、上越市にあります上越教育大学の先生から、外部アドバイザーといたしまして、保育の指導に入ってもらっている状況でありまして、そのような活動につきましては、今後も広げてまいりたいと、続けてまいりたいというように考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

先進地視察などという件について、課長いかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

失礼いたしました。

先進地視察といいますか、例えばお隣の上越市の上越教育大学の附属の園ですか、そちらのほうで、例えば公開保育といったものも実施しておりまして、そういった公開保育の場に、糸魚川市の教諭が、保育士が出向いて学んでくるといったこともございますので、そういった部分を活用してまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

少子化問題の対応として、子育て世代が住みやすい糸魚川市を望む声が聞かれておりますが、糸魚川市として、そのような環境整備をどのように定義するかお伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

鶴本教育長。〔教育長 鶴本修一君登壇〕

○教育長（鶴本修一君）

お答えいたします。

私ども糸魚川市の場合につきましては、第3次市の総合計画を、向こう令和10年を目指して策定しまして、今現在、その方向で進めております。

その中で、特に少子化問題の対応としまして、子育て支援というような部分のところが、かなり大きなウエートを占めております。そここのところも確認しますというと、やはり安心して出産、子育てができる環境づくり、その環境の中には、施設設備もあるでしょうし、保育士、教職員の関係もあるでしょうし、そして、その魅力といいましょうか、その環境の中のメニュー、要するに子供たちの活動のメニューみたいなものに、魅力があるか、ないかというふうな部分のところが、一応加味されると思います。

そして、さらに郷土との関わりをどのように園・学校が、つながりをつけながら糸魚川の魅力、例えば自然みたいなものがたくさんありますので、そこら辺りとどういうふうにリンクさせながら豊かな環境の中で、自然を生かして子供たちがすくすくと自然の中で伸びていく。そんなふうな環境づくり等も必要だろうと思います。そうやってきますと、施設設備、それから人、環境をいかに生かすかというふうな部分のところがしっかり整備する中で、安全・安心の中で子供たちを育てていこうというふうな形です。中身的には、子ども一貫教育の乳幼児教育から始まってきます。そして、市でも目指していく総合計画の子育て支援の分野と重ね合わせながら、一つ一つの取組、事業にやっぱり愛情を持って、これからは進めていくことがビジョンの大きな指針ではないかなというふうに私は考えています。

以上です。

○議長（松尾徹郎君）

ここで、暫時休憩いたします。

再開を1時といたします。

〈午後0時01分 休憩〉

〈午後1時00分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野恭行議員。

○10番（東野恭行君）

今ほど質問させていただいた民営化の件でございますが、我々、みらい創造クラブが調査・懇談会を繰り返し、頂いた言質でございます。これからも真摯に対応していただきたいと要望申し上げ、質問を、こちらのを終了させていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

引き続きまして、高校の魅力化についてでございます。

先般、高校魅力化コーディネーターのお一人の方とお話しさせていただきましたが、お仕事に関する情熱や勤勉さを知ることができました。今後の活動にも期待しております。

糸魚川市におかれましては、任用された3人のコーディネーターに短期的視点と長期的視点でどのような成果を求めていくのでしょうか。

行く行くは糸魚川の3つの高校に他市からも生徒を誘引しようとするならば、どのように情報を発信していくのか。選んでもらえる学校の魅力づくりにどのような仮説を持って魅力を高めていくのかを伺いたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

高校魅力化のコーディネーターにつきましては、生徒が自ら目標を持ち、考え、実現に向かって挑戦する探究的な学びを実践しているところでございます。そこにコーディネーターが関わることにより、より充実した学びになるというふうに思っており、そういった土壌をつくっていくための土台づくりを長い視点でコーディネーターにはつくってもらいたいというふうに考えております。そういった学びができるということ、そういった学びが進路や就職の子供たちが目指す夢の実現に結びつくことが、糸魚川市内の高校の魅力として発信できればというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

先ほど申し上げましたとおり、コーディネーターの任期が3年ということで、長期の視点でそういう探究的な学びを通すことで、そういった子供の自立を目指した教育を長い視点で続けていきたいということですが、また3年区切りが終えたら、またその探究心を求めるような、そういった取組は続けていくという考え方でよろしいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

コーディネーターの任期につきましては、国の総務省の地域おこし協力隊の制度を使っているもの

ですから、3年という任期はございますが、こちらの高校魅力化の取組につきましては、これまでも続けてきており、今後も3年にかかわらず、一定の期間続けていく必要があると考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

そこで、ふと疑問に思ったことなんですけども、魅力化コーディネーターは、授業時間も生徒と関わるのか。授業時間以外の時間で生徒たちと密接な関わりが持てるのか、伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

市内3高校におけます高校魅力化コーディネーターの配置につきましては、この4月から始めたところで、少しずつ高校とも支援内容を協議しながら進めてきているところであります。

今ほど授業の中でそういったコーディネーターが関わりがあるかというご質問ですが、高校1年生の総合探究の授業というのがございます。そちらのほうの組み立ての支援であったり、実際には週1回行われている授業の中に、コーディネーターも参加する中で、そこで得られるものが、ほかの探究プロジェクトといったものにも効果がありますので、そういったもので授業にも参加しております。

また、授業以外ということもございますが、今ほどお話ししました目的を持ってその課題解決に進む探究プロジェクトの企画であるとか、それ以外にも現在、糸魚川高校におきましては、この4月から自習室を開設しておりまして、そちらのほうでの勉強や進路の相談を受けたり、それ以外の高校におきましては、大学の推薦入試の講座の支援であるとか、面接の指導といったことで、授業以外の部分でも生徒と関わる時間といったものもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

魅力化コーディネーターの任期は、先ほど申し上げましたとおり3年とされております。高校の魅力化は、3年程度ではなかなか難しいことと思いますが、どの領域まで行くという、糸魚川の高校に来てくれるであろう生徒にも父兄にも分かりやすい指標を表現していただきたいと思います。

続きまして、③番目の子育て支援施設と室内遊戯施設についてでございます。

人口減少は止められないが、子育てする場所として、糸魚川に住むことに対し、満足していただくために、子育て支援施設の設置は必要な投資か。その思いと長期的な展望を改めて伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

お答えいたします。

今回、駅北地区で進められております子育て支援施設につきましては、子育て支援センターの現在ある場所からの移設もありますが、それ以外の機能といたしまして、長年の要望でありました屋内遊戯場であるとか、一時預かりといった機能も備えているところでございます。

そういった中で、少子化という状況ではございますが、なかなか保護者にとっては、保護者同士が相談する場というものが減ってきたというのが実情でございます。こちらのほうの施設は、そういった相談の場になり得るということで、子育て満足度が高まっていければというふうに考えておりますし、にぎわいの拠点施設といたしまして、多くの市民に愛される施設となるよう取り組んでまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

これ本当に見方によりましては、少子化のこういう状況なのに、そういうでっかい投資をして大丈夫なのかという市民の声も確かに聞かれるのは事実であります。

ここは、糸魚川市がこんな子育て環境をばっちり整備した糸魚川市にしたいという強い気持ちが大切になってこようかと思っておりますので、これからの計画についても自信を持って発信していただきたいですし、こういった狙いがあるので、こういう建物が建つんですということをしっかりと説明していただきたいと思っております。

続きまして、産後ケアに関する有効な支援策に気がつかなかった、手続きが煩雑だという声を最近伺いましたが、同様に子育て世代に情報として行き届いていない施策もあるのではないかと考えられますが、今後は、この子育て支援施設における発信力とサポート力に期待したいと考えますが、機能についてはどの程度期待していいのか、行政が直接関わって、機能していくのか、困ったときの駆け込み寺的な場所になり得るのか、全て指定管理者任せになるのか、内容を伺いたいと思いません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

嶋田こども課長。〔教育委員会こども課長 嶋田 猛君登壇〕

○教育委員会こども課長（嶋田 猛君）

子育てに関する支援制度、確かに多数ありまして、必要な方にとっては必要なもの、またそれ以外のものというのも多数あるもんですから、そこはしっかりとした情報を周知をしていきたいというふうに考えておりますし、今回こちらのほうにできる施設の中では、妊産婦の相談窓口といったものを設けます。相談しやすい体制となるよう努めたいというふうに考えておりますし、運営の形態につきましては、これからということではありますが、市民にとってどんな些細なことでも遠慮せず相談できる場所、また、悩みなどを打ち明けられるような場所として、保健師などの専門職とも連携して、進めていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

今の子育て世代、年齢も多様にあると思うんですけども、本当若い世代はSNSを二次的情報伝達の方法として、インスタグラム等、そういったのも活用しながら、うまく情報伝達に努めていただければというふうに思います。

（4）番の①について、再質問いたします。

今回の補正予算は、おおむねエネルギー価格の高騰に合わせた補正予算でありました。今後、国の支援策なども展開されると思いますが、糸魚川の業者さんたちが、適正な利益を上げられる価格設定をお願いしたいと考えます。それには、細かい値上がりの情勢を加味した対案も必要になってくると思いますし、先々の不安もあろうかと思えます。適正な利益がいい仕事につながり、よい地域内循環につながると考えますので、市役所が率先し、対応のほどよろしくをお願いしたいと思えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

山口財政課長。〔財政課長 山口和美君登壇〕

○財政課長（山口和美君）

お答えいたします。

議員のおっしゃるように、よい地域内循環といいますかね、そちらのほうのお金の循環というのが大変重要だと考えております。

まず、見合った賃金、そちらのほうが上がってくる。またそうすると購買力が上がる。ただ、それを価格転嫁しなければ、労務の単価のほうが上がらない。価格転嫁のほう、企業の方がやっぱりちゅうちょするところであるということで、これは糸魚川市の問題だけではないかと思うんですが、この循環がうまくいかないと、地域経済のほうはうまく循環していかないと考えております。ですので、まず、市のほうで発注するものにつきましては、適正な価格に努めますし、また、業者さんですかね、お困りいただいたときには、協議なり、ご相談のほうをいただければと思いますし、工事の場合ですと急激な単価アップ、物のアップがある場合がございますので、そういった場合については、約款のほうで対応のほうがございますし、今も単品スライドという形で対応しておりますので、協議いただければと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

最後の質問になります。

糸魚川で満足に暮らしていただくために必要な手だては、働く環境の整備であると考えます。ひとえに賃金だけが業種を選ぶ理由にはならないと考えますが、企業も担い手や職員さんが、満足いくためにご努力されています。大切なことは、糸魚川で住む市民の皆様が、地域内経済の循環を強

く意識して過ごしていただくことであると考えます。

糸魚川市におかれましては、その地域内経済の循環を意識した活動の後押しと、広く市民の皆様はその意識を啓発していただくことであると考えます。一番最初の市長答弁の中にも本当に市内の皆様にもそういった意識を啓発していただけたという答弁でございましたので、期待しているところではありますが、このコロナ禍において、国や県、糸魚川市からも手を差し伸べていただき、事業者も市民の皆様も地域内経済の循環について意識ができたことと思います。これからは、県民所得の向上を目指すべく、糸魚川市民を支えてくれる糸魚川市役所を目指していただきたいと思います。市長、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

やはり市内の企業を育成、また企業の活動に促進することは、糸魚川市にとっても大変大切なことですので、今厳しい環境の中で、どういったことが連携取っていけるのか、そういうところがころころ変わってくる部分もあるかもしれませんが、できるだけ対応していきたいと思っております。コロナ早く終息を願いながら対応していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

東野議員。

○10番（東野恭行君）

事業者の皆様、市民の皆様と対話を繰り返す、本当に優しい市役所を目指していただきたいと思います。

以上で、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、東野議員の質問が終わりました。

関連質問なしと認めます。

ここで、説明員入替えのため、暫時休憩いたします。

〈午後1時15分 休憩〉

〈午後1時16分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、和泉克彦議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）